

キリスト教保育

年主題

つながって

～今、わたしを生きる～

礼拝のお話
池田季美枝

論説

保育における食育を考える

野口孝則

小論

人と動物の絆

browse 上英一郎



2022 DEC. 12

彼らはその星を見て、非常な喜びにあふれた。そして、家にはいつて、母マリアのそばに
いる幼な子に会い、ひれ伏して拝み、また、宝の箱をあけて、黄金・乳香・没薬などの贈
り物をささげた。そして、夢でヘロデのところに帰るなどみ告げを受けたので、他の道を
とっておて自分の国へ帰って行った。

口語訳聖書・マタイによる福音書 2章10~12

今月の聖句はクリスマスの意義をよく示してくれる箇所だと思います。

第一に東の博士たちは幼子イエスのもとに来て「非常な喜び」に溢れたとあり
ます。クリスマスの喜びとは何でしょうか。それは「主はきませり」（讚美歌21
261）の喜びです。旧約の預言の成就として、人類を罪から救い、死から解放す
る救い主が来られたのです。神が人間となって下さったのです。これはまさに
「目が見もせず、耳が聞きもせず、人の心に思い浮かびもしなかった」（コリント
の信徒への手紙一 2：9）出来事だったので、博士たちは「感激の喜びで身震い
した」のです。博士とは当時の天文学者で星の研究（理性）でエルサレムまでは
来れたのですが、そこから先、イエスの生まれたベツレヘムへは聖書（神の啓
示）に従ったこと（マタイによる福音書 2：6）は、理性の限界と信仰の決断の
もたらす祝複を暗示しています。（出かけた彼らに星は従い先導した）信仰とは
決断であり冒険ですが、確実な冒険です。

第二に博士たちは御子を発見し、ひれ伏して拝み、持参した貴重な贈り物を惜
しげもなく「ささげた」のでした。クリスマスに私たちは「言いつくせない贈り
物」（コリントの信徒への手紙二 9：15）を神から頂いたことに驚き、感謝して、
私たちが神によきものをささげて喜びを分かち合うのです。与えられた喜びが与
える喜びを生み出すのです。

第三に博士たちは救い主に会った後、夢でヘロデのところに帰るなどのみ告げ
を受けたので、「他の道をとっておて」自分の国へ帰って行ったと記されています。
主イエスと出会った者は、今までの生活の繰り返しではなく、「他の道」新しい
生活をするように導かれます。クリスマスは日本式の忘年（としわすれ）の時で
終わらせるのではなく、「インマヌエル」（神われらと共にいます）（マタイによる福
音書 1：23）の約束と希望を頂いて新しい出発の時とすべきではないでしょうか。

新しく生きるためには主イエスを自分の心にお迎えする必要があります。今年
のクリスマスこそ、私たちは、単に年中行事としてではなく、またページェント
で当時をしのぶだけでなく、原体験をもたらす出来事として受けとめ、応答し
ていきたいものです。その時、新年を新しく生きることができるのですから。

吉井秀夫・執筆 当時・鹿屋キリスト教会牧師 信愛幼稚園園長
1987年『キリスト教保育』誌12月号より

キリスト教保育

第645号12月号



年主題

つながって

～今、わたしを生きる～

幼子とともにキリストへ

目次

〈巻頭言〉シメオンの祝福 石丸昌彦

〈論説〉保育における食育を考える 野口孝則

〈小論〉人と動物の絆 洲上英一郎

図書紹介 岡本恵子 藤田雅子

聖書に聞く・お話 篠田真紀子

子どもの祈り

【カリキュラム】

12月のねがい

心にとめて 犬童れい子

0・1・2歳児 荒尾めぐみ幼稚園

実践からの学び 布村志保

子どもの祈り 矢部尚子

心にとめて 永瀬真澄

3・4・5歳児 北見幼稚園

実践からの学び 国府田郁絵

2

3

4

6

16

19

20

24

25

26

28

34

35

36

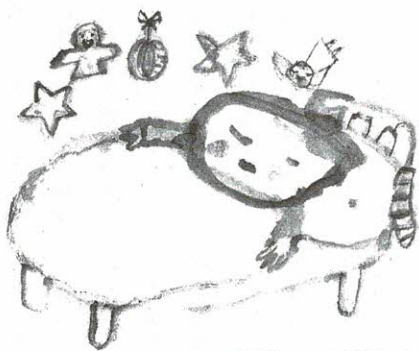
38

44

長縄えいこ
松成真理子

田中榎子
長野祥三
中畝治子
金井ユリ

表紙絵
カット



絵本のとびら 安心院敏子

〈連載〉キリスト教保育Q&A 塩谷直也

〈連載〉領域「表現」とは 尾根秀樹

目福口福耳福 今村愛樹

礼拝のお話 池田季美枝

風 吉岡康子 編集子 西嶋佳弘

連盟だより

45

46

48

51

52

65

66